

A photograph of an astronaut's blue boot with a treaded sole stepping on the lunar surface. The Earth is visible in the dark sky above. A yellow banner is overlaid on the right side of the image.

EY Innovative Startup 2020 Factbook

ホットトレンド 11分野
表彰企業 17社

The EY logo, consisting of the letters 'EY' in a bold, white, sans-serif font, with a yellow triangle pointing upwards to the right of the 'Y'.

EY

Building a better
working world

EY Innovative Startup 2020 winners



17

イノベーションを通じて社会に
新たな価値を提供するスタートアップ

EY Innovative Startupは、今後著しい成長が見込めるホット
トレンド分野において、イノベーションを起こそうとするスタートアップ
を表彰する制度です。成長性、革新性、社会性の3つの観点から
審査し、2020年2月28日に表彰企業を発表しました。本誌は表彰
企業17社を紹介するため、24hour IT Peopleの特集ページなどを
編集したものです。

EY新日本有限責任監査法人
EY Innovative Startup 運営事務局

2020年4月
24hour IT People公開日現在



AI

いよいよ実用段階へ。進化するAIは次のステージへ。

ニューラルポケット株式会社	02
ギリア株式会社	03
株式会社日本データサイエンス研究所	04
株式会社pluszero	05



AR

拡張現実により、目の前に広がる未来の世界は無量大。

プレティア・テクノロジーズ株式会社	06
-------------------	----



GOVTech

国、地方自治体のあらゆる行政手続がITでシームレスにつながる。

株式会社グラファー	07
-----------	----



IoT

オンライン・オフラインの区別はなくなり、社会に大変革を起こす。

株式会社バカン	08
---------	----



Energy

新しいテクノロジーの活用で地球に優しくより快適な生活に。

NExT-e Solutions株式会社	09
----------------------	----



Enterprise

デジタルトランスフォーメーションでビジネス環境が大きく変化。

Anyflow株式会社	10
オーティファイ株式会社	11
キャディ株式会社	12



Security

Secureな環境がR&Dを加速させ、新たなソリューションを生み出す。

EAGLYS株式会社	13
------------	----



Food Tech

SF世界のような技術が食の未来を変える可能性を秘める。

インテグリカルチャー株式会社	14
ベースフード株式会社	15



Digital key

デジタル化による革新が未来への扉を開く。

株式会社ビットキー	16
-----------	----



Health Care

高齢化社会やストレス社会を背景に世界規模での市場拡大に期待。

株式会社AIメディカルサービス	17
-----------------	----



Robot

低価格ロボットの登場や、IT技術の組合せにより、市場拡大中。

株式会社QBIT Robotics	18
-------------------	----



ニューラルポケット株式会社

<https://www.neuralpocket.com/>

当社は「AIエンジニアリングで未来の社会を形にする」をミッションにAIを活用した事業を展開しています。

画像や動画における物体検知や空間認識、種別分類、人体・動態解析、表情・閲覧解析などの幅広いAI技術を独自に開発。スマートシティやデジタルサイネージ、ファッション分析など業界の垣根を越えて、幅広い分野で活用されています。技術は独自性が高く、各分野をリードする大手企業から引き合いがあります。また、AI解析によって得られたビッグデータを専用のデータアナリティクスプログラムで解析し、空間情報や人の属性情報を定量化および可視化することで、更にサービスを発展させてまいります。

AI BUSINESS AIを活用した各種事業を展開

モビリティ事業

AI ドライブレコーダー

AI搭載スマートドライブレコーダー
自動車や歩行者検知をエッジで高速処理

サイネージ広告事業

AI サイネージ

視聴率測定や広告自動切替え
機能付きのコネクテッドサイネージ

スマートシティインフラ事業

スマートシティソリューション

スマートフォンやAI端末を用いたスマートシティ
スマート工場・倉庫/地方再生事業

ファッション事業

AI MD

AIによるファッショントレンド解析サービス

Our Team Building

「多様性と絶対的信頼」

弊社のチームは、様々なバックグラウンドや専門性を持つメンバーによって構成されています。長年プロダクト開発に携わってきたメンバーや、AI論文から最先端の情報を吸い上げて開発に活かすリサーチャーなどが、それぞれの専門性を活かして活躍しています。

お互いを信頼して意見をポジティブに戦わせることで、常識からは生まれない新しいアイデアを日々生み出しています。そのアイデアが前人未踏のものであっても、「このチームならできる」という仲間への絶対的な信頼をベースに、「自分の専門性を最大限発揮してチームに貢献する」という意識を持つことで、連続的にイノベーションを実現する体制を作り上げています。



取締役CTO
佐々木 雄一

ギリア株式会社



<https://ghelia.com/>

ギリアは、「ヒトとAIの共生環境の実現」を目指して、2017年6月に設立しました。

社会や暮らしの様々な場面においてAIによる能力拡張を実現し、課題解決や効率化だけでなくAI技術による感動体験を提供することをビジョンに、最先端の深層学習技術をあらゆる人が自在に使いこなせるOS・ハードウェアを含む統合AIプラットフォームの開発及び提供を行っております。今後世界的な規模で成長が見込まれるAIサービス事業の領域において「世界と戦える日本発のAI事業者」への成長を目指し、事業を拡大しております。

AIソリューション

ギリアではAIアルゴリズムの開発に留まらず、企画からデータ作成、運用サポートまでAIソリューションをご提供するための「すべて」をバリューチェーンとして提案可能。



Our Team Building



代表取締役社長兼CEO

清水 亮

「多様性と専門性のバランスが勝利の鍵」

当社はダイバーシティを重視したチームビルディングを特徴としています。AIの専門家はもちろん、データ作成の専門家や、アプリやサービス開発のエキスパートなどなど、多様性を持った現場目線と高度な専門性を持ったスタッフのバランスを取り続けることで多種多様な現場に適用可能なAIのトータルソリューションを提供しています。

株式会社日本データサイエンス研究所

<https://jdsc.ai/>



「日本の産業をアップグレードする」ことを使命とした東大発のAI企業。

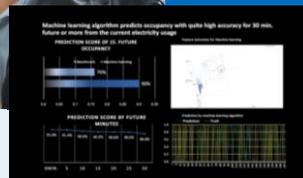
従来の人月単価に基づいた請求から決別し、成果に基づいたコミッション請求により、クライアント企業の利益貢献に直結したAIサービスを提供している。

アプリケーション開発を通して、需要予測・異常検知・物流最適化・教育・在庫最適化・与信評価・言語／画像認識など多岐にわたる課題に取り組み、最近では、スマートメーターから得られる電力データを元に、AIが在不在を判定して配送ルートを示すシステムを開発。これにより不在配送の9割近くを減少させることが可能となる。

『AI活用による不在配送問題の解消』にむけた取り組み



機械学習アルゴリズムが、現在の電力使用データを用い、現在から30分後までの在不在を予測



不在配送が **92%** 減少

配送距離を **5%** 削減

Our Team Building

「ビジネス・データサイエンス・データエンジニアの三位一体」

三位一体を実現するべく、下記の4点を実施しています。

- 既存組織に追加的にエンジニア組織やデータサイエンティスト組織を追加するのではなく、複数の領域に高い専門性を元々有する最高水準の人材を採用する。
- 社会人大学院制度を充実し、アカデミックな先端研究と、社会実装の両立ができる勤務体系を全社員に利用可能にする。
- 最高人材が、さらに複数領域の専門性を強化できるよう、組織としての能力伸長に一切の妥協をしない。
- 定期的なジョブローテーションにより、複数の領域で先端的、かつ専門性の強化を促進するプロジェクトをメンバーに提供する。



代表取締役社長CEO

加藤エルテス聡志

株式会社pluszero

+ zero

<https://plus-zero.co.jp/>

数学・統計・機械学習技術を用いて、クライアントのあらゆるビジネス課題の解決に取り組んでいる。

主な事業領域は、「価値分析」「画像・動画分析」「ビジネスプロセス分析」「データ構造分析」「自然言語解析」の5つ。それぞれの領域で、問題解決のための様々な要素技術の研究開発を行っており、企業の抱える課題に応じてそれらを組み合わせ、多様な課題に対応できるソリューションを提供する。



Our Team Building



代表取締役社長
森 遼太

「適材適所」

プロジェクトへのアサイン時はメンバー自身の希望を最大限尊重する、一人ひとりの得手不得手を見極めて分業する、上意下達の一方向的なマネジメントではなく個々の閃きや創意工夫を重視するといったように、多様な専門性を持つメンバーそれぞれの良さを十分に引き出し、相乗効果を生み出せるような環境づくりを心がけています。それによって、一人で解くには難しい課題・複雑な課題に対してチームとして有効な解を提案していける組織となることを目指しています。

プレティア・テクノロジーズ株式会社



<https://pretiaar.com/corporate/>

「共に達成する喜びを届ける」をミッションに、AR技術を活用し、現実世界を舞台にした体験型ゲームの企画開発を行う。

コンテンツ開発と並行して、独自のARバックエンド技術「ARクラウド」というサービスも開発している。この技術により、人々はあらゆるデバイスから同時に、その空間と紐づけられたデジタルコンテンツを楽しむことが可能となる。3D空間でのユーザー位置推定、マッピング、トラッキングといった困難な技術課題を解決し、将来的にはこの技術を世界中のAR開発者に向けて開放していく。



IR謎解きゲーム



MISSION

ミッション

制限時間は90分——

渋谷中に仕掛けられた謎を解き

人々を救え！

2019年、東京。

この街には、サイバー事件から人々を守る秘密組織「ハッカークラブ」がいた。

ある日、あなたのもとに謎の少女"サラ"から一通のメールが届く。

「私はハッカークラブのサラ。あなたの力が必要なの。」

ハッカークラブの入団試験を受けてみない？
果たして、入団試験の内容とは……！？



Our Team Building



代表取締役
牛尾 湧

「ダイバーシティ×フラット組織」

人種やジェンダー的な多様性の高い組織は、創造性や利益額が大きくなるという研究があります。弊社は、50名弱の小さい組織ながら、すでに日本国内外から15を超える国籍のメンバーを集めています。そして、事業に関する情報共有と職種・立場を超えた議論を奨励することで、問題に対して常に創造的な解決策が多数提案される企業文化を築いています。

株式会社グラファー

Graffer

<https://graffer.jp/>

「テクノロジーの力で民主主義を拡張する」をビジョンに掲げ、行政サービスをデジタル化する各種Govtechサービスを開発・運営する。

官公庁向けのデジタル行政プラットフォーム、事業者向けの「Graffer法人証明書請求」、市民向け手続き効率化サービス「Grafferフォーム」など多数の製品を提供している。これまで、神戸市や鎌倉市をはじめ、全国各地の自治体に対し行政サービスのデジタル化ソリューションを提供してきた実績がある。今後はスマートフォンを活用した行政手続きの完全オンライン化など、さらに先進的なサービスの全国展開を図る。

Digital Government for the People



Graffer



Our Team Building

「行動を通じて結果を出すことに集中する」

行政サービスをよりよく変えるためにどうすれば良いか、多くの有識者、政治家、官僚たちが延々と議論を積み重ねてきた。一方の市民は行政サービスについての不満を絶え間なく表明してきた。しかし現実には、我々が享受している行政サービスの大半が数十年前のやり方からほとんど変わっておらず、アナログかつ面倒な手続きがあちこちで求められる。行政における最大の問題は、問題が明らかで、解決の方策すら明らかであるのに、物事を本気で変えようとアクションを起こす人間があまりに少ないことだ。我々は、常に具体的で明快な解決策を作り、現場に通って実際に物事を変えることに集中する。大事なものはひらめきではなく徹底した行動だ。



代表取締役CEO
石井 大地

株式会社バカン

<https://www.vacancorp.com/>

VACAN

「いま空いているか1秒でわかる、優しい世界をつくる」をミッションに、リアルタイム空席情報プラットフォーム「VACAN」を提供。

自社開発のセンサーやカメラで空席状況のセンシングを行い、AI・IoTによって空席情報を分析・提供する。これまでは、資金力・人材力のある大手企業でしか構築できなかった空席情報プラットフォームを、「VACAN」では誰もが手軽に利用できる汎用的なSaaSサービスとして提供している。

そのほかにも、トイレの空き状況がわかるクラウド型IoTサービス「VACAN Throne」や、PCやスマホから事前予約・決済しお弁当をお取り置きできるサービス「QUIPPA」を提供している。

VACAN

いま空いているか 1秒でわかる

VACANは、トイレ、飲食店、商業施設などあらゆる場所の「空き」を可視化し無駄な待ち時間を減らす、クラウド型IoTサービスです。



Our Team Building

「Trust & Lead, Pride & Respect, Delight & Integrity」

合宿で、「どういうチームでありたいか」を全メンバーで徹底ディスカッションし、バカンのValueとしました。

Pride & Respect 誇りをもつこと、尊重すること

プロフェッショナルとしての誇りを持ちながらも、常に相手の意見に耳を傾けることを忘れません。

Trust & Lead 信じること、導くこと

一人ひとりが意思を持ってチームを導くとともに、仲間を信じ任せることでそれぞれのパフォーマンスを発揮します。

Delight & Integrity 楽しませること、誠実であること

自身が楽しみ、そして楽しませることができるサービスを届けながらも、社会、顧客、品質に対して誠実に向き合います。



代表取締役
河野 剛進

NExT-e Solutions株式会社

<https://www.nextes.jp/>



「先進のバッテリー制御技術でE-モビリティの普及促進と再生可能エネルギーの導入拡大に貢献する」をビジョンに掲げ、2008年に設立。

リチウムイオンバッテリーの次世代バッテリーマネジメントシステム（BMS）及びバッテリー関連モジュールの開発・製造・販売を行う。通常、蓄電池は使用状況によって性能に差がでるが、独自の制御技術により性能を均一化し、蓄電池の長期利用や再利用を実現。電力会社と共同で、EVで長期利用した蓄電池を定置用として再利用するプロジェクトも進行している。



Our Team Building

「コミュニケーションと連動 挑戦することを推奨 オープンイノベーション」

日中という国籍の違うメンバーで構成されているため、何かあると関係者が集まり議論。考え方のすり合わせに時間を割いています。いざというとき、言葉がなくても一体感をもって動けます。

自ら前例となることを目指し、日本になれば海外から持ってくる、海外にもなければ自分で作るというのが当社の流儀です。

大きな成果を短期間で出すため、外部企業（主に株主企業）との協業に力を入れています。当社は協業が上手くいっていると思います。今は、当社のビジネスチームは社内だけでなく、社外にも広がっています。



代表取締役
井上 真壮

Anyflow株式会社

<https://anyflow.co.jp/>



国産初のクラウドネイティブiPaaS【Integration Platform as a Service】「Anyflow」を提供。

複数のSaaSをAPI接続することで、定型業務・ワークフローの自動化を実現する。クラウド上に構築されたシンプルなUIで、プログラミング不要かつ簡単な操作によって様々なアプリを接続・連携させることができるのが特徴。

今後は、国内・海外SaaSを統合管理するプラットフォームの役割を担っていく予定。

Anyflowは、様々なアプリケーションを
かんたんに接続・連携することができる
「業務の自動化プラットフォーム」です。



アプリケーションを連携

プログラミングレスでアプリを連携。エクセルのマクロがわかるスキルがあればOK。



自動化

一度ワークフローを作ってしまうえば、業務は自動化されます。



余剰時間が生まれる

Anyflowは従業員の時間を生み出します。空いた時間で価値の高い業務へ。

Our Team Building



代表取締役CEO
坂本 蓮

「Product-Led Growth」

弊社の8割はエンジニアで構成されており、プロダクトが中心の会社です。Product-Led Growth を一言でいうと、これまでプロダクトの外部で行っていたマーケティング活動等を、すべてプロダクトの内部で行うという戦略で、Zoom, Slack, Dropboxなどが採用している戦略です。プロダクトの特性上、SaaS間の連携に困る人は現場の方であり、現場の方でも簡単に連携を行えるようなプロダクトを目指して、日々チームづくりをしています。

オーティファイ株式会社

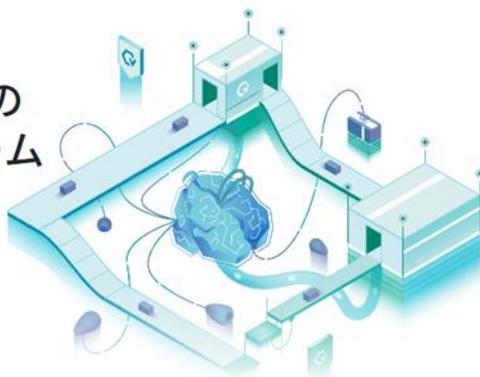


<https://autify.com/ja/>

AIを用いてソフトウェアテストを自動化するプラットフォーム「Autify」を提供。

近年素早い市場の変化に対応するため、ソフトウェア開発の手法も開発サイクルを素早く回す「アジャイル開発」が主流となっている。「Autify」は、そうした早いサイクルを回す上でボトルネックとなる検証作業を、AIを用いて自動化し、ソフトウェアの早期リリースをサポートする。非エンジニアでも使いやすい設計が特徴で、簡単にウェブアプリの検証作業を自動化できる。さらに、アプリケーションコード変更の監視や、検証シナリオの修正もAIが自動で行う。

アジャイルチームのための QA自動化プラットフォーム



Autifyのテスト自動化プラットフォームで、製品のリリースサイクルを高速化

手動テスト、自動テスト作成、またそのメンテナンスに時間を費やす必要がなくなります



コーディングは不要

ブラウザの操作を記録するだけで、誰でも簡単にテストを自動化することができます。プログラミングの知識は不要です。



素早くリリース

E2Eテストを素早く自動化し、複数ブラウザですぐにテストを行うことができます。毎回のリリースのQAプロセスを高速化し、品質レベルを上げつつ、リリース頻度を増やすことで、競争力を高めることができます。



AIによる自動メンテナンス

AIがリリースの度に変更されるUIの変化を監視し、影響のあるテストシナリオを自動的にアップデートします。壊れたテストスクリプトを直す作業はもう必要ありません。

Our Team Building



代表取締役
近澤 良

「顧客のBurning needsを解決する」

イノベーションを生み出すには、市場に対して素早く価値を提供していく必要があります。短い時間で大きなインパクトを出し続けなければなりません。そのため、顧客の最も大きく燃えている課題(Burning needs)を特定し、それに対して最速で解決策を届けられるよう常に意識しています。

キャディ株式会社

<https://corp.caddi.jp/>



製造業における受発注プラットフォーム「CADDi」を開発運営。

「モノづくり産業のポテンシャルを解放する」をミッションとし、少量多品種における金属加工部品の受発注の最適化をコアに据えて、製造から物流、販売に至るバリューチェーン全体を支えるプラットフォームになることを目指している。

「CADDi」は、独自開発の原価計算アルゴリズムに則った自動見積もりシステムによって、発注者と品質・納期・価格が最も適合する加工会社とのマッチングを可能にする。2020年は、受発注プラットフォームとしての対応領域を装置一式からプラント（製造ライン）一式の加工品へと拡大していく。



01



図面データから
自動で見積算出

02



品質・価格・納期面で最適
な加工会社を自動で特定

03



幅広い製品カテゴリへの
一括対応

Our Team Building



代表取締役
加藤 勇志郎

「強いカルチャーで、離れていてもチームを一つに」

カルチャーブックを通じた会社のカルチャーの言語化・明文化は早期から実施し、全社イベントでカルチャーをテーマにした対談イベントを設けたり、浸透させるための取り組みにも力を入れています。

EAGLYS株式会社

https://eaglys.co.jp/

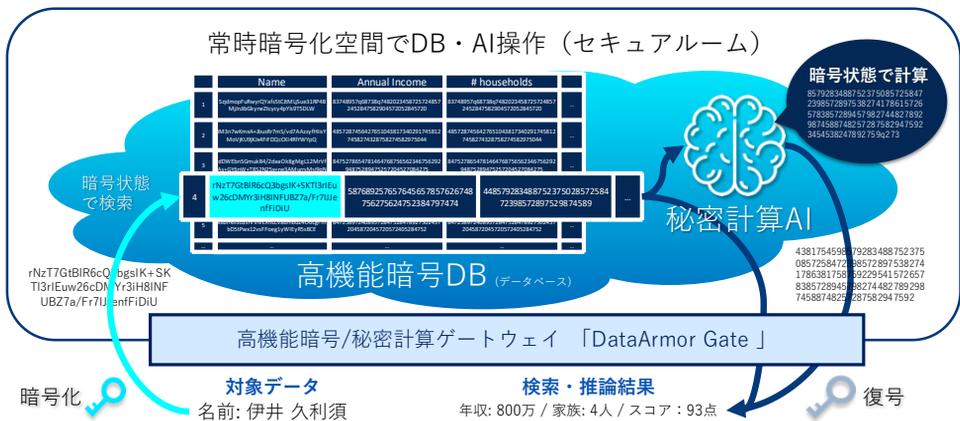


あらゆるデータを安全に活用できる社会の実現にむけて、秘密計算技術を活用したセキュアコンピューティング・プラットフォーム「DataArmor(データアーマー)」の研究開発および、金融・製造・医療・マーケティング領域のパーソナルデータや機密情報を用いたデータ解析・AI技術の研究開発事業を行なっています。

秘密計算とは、データを暗号化したまま復号することなく(生データに戻さず)計算処理できる技術です。DataArmorは本技術を活用し、暗号化状態でのデータ集積・統合・集計分析から機械学習まで可能にする製品シリーズです。

秘密計算の世界トップランナーを目指し、研究と事業開発に日々取り組んでいます。

データベース/ AIモデルの暗号化、セキュアなクラウド運用ルームを構築



Our Team Building

「多様性の中に共通項を見つける」

顧客に技術・製品の個性を押し売りするのではなく、顧客業務との接点や共通項を探しチューニングすることで売りたいものを顧客に届けられます。人もチーム作りも同様だと考えています。それぞれ個の良さをつぶさず仕事をなすためには、とっかかりとなる共通項を見つけ、そこを起点に仕事範囲を広げていくことが良いと思っています。コアをもちつつ、決まった枠を超えて連携した仕事ができ、その集大成が強いつながり、組織力となるのだと考えます。まだ小さな組織で、企業としてのイノベーションもこれからですが、革新的なプロダクトを生み出すべく、チーム一丸で頑張っています。



代表取締役社長
今林 広樹

インテグリカルチャー株式会社



<https://integriculture.jp/>

細胞培養技術によって作られた食品などの細胞農業製品を、消費者の手の届く価格帯で提供することで、持続可能なタンパク源を提供することを目指す。

外部から成長因子を添加せずに様々な細胞を大規模に培養可能な汎用大規模細胞培養システム「CulNet System」を独自に開発。従来の細胞培養方法に比べて、大幅にコストを低減することが可能に。2020年代を通じて、化粧品・健康食品・一般食品など、様々な細胞農業製品を順次市場投入する予定。



肉そのものを細胞培養でつこう

細胞の培養されていく様子

Our Team Building

「発端はスーツ無縁の世界にあり 実動は社会システム工学にあり」

チーム作りの基本は、まず人集めだと思います。さらに言うと、チームを作る人を集めることだと思います。

一口に「イノベーション」と言っても、既存の枠組みを効率化するものと、無い枠組みを作るものがあると思います。そして一般論として、チームには何をやるかを決める「頭」のひと、実行に移す「体」の人がいると思います。

その上で、無い枠組みを作るチームの「頭」の人には、「オトナな思考」を真正面から否定して、世の常識の破壊にむけて実際に行動している人が、自然と就く感じがします。こうした人を探すにあたっては、現実や体裁を無視した行動ができる、趣味・同人・創作などの世界での経験や成果物を見ています。

そして「頭」が目指す方向性を実行に移す「体」の作り方は、勤でも感性でも哲学でもなく、システム工学や、その下位概念の経営工学という、定量的で科学的な領域だと思います。

ただし当社では「体」の設計にあたって、自社の社内体制という範囲感ではなく、もう2つ上の階層、自社や関連団体や個人が、これから作る社会の枠組みの中に、どう組み込まれるかという観点で考えています。



代表取締役
羽生 雄毅

ベースフード株式会社

<https://basefood.co.jp/>



「主食をイノベーションし、健康をあたりまえに」をミッションに、世界初の完全栄養の主食（ベースフード）の開発・販売を行う。

2020年4月末時点で、販売する完全栄養食の累計販売食数が200万食を突破している。

「かんたん・おいしい・からだにいい」のすべてをかなえる「あたらしい主食」を開発し、食事をたのしみながら、誰もが健康でいられる社会の実現を目指している。

かんたんに、
おいしく、栄養バランスをとる。



BASE BREAD^o



BASE PASTA^o

Our Team Building

ビジョン「主食をイノベーションし、健康をあたりまえに」を実現できるアイデアか？

意識的に外に出て、今までにない新しい機会を常に探すようになっています。先駆者と同じことをやっても、前には進めますが、いつまでたっても差は縮まらないからです。出ていく先も、ビジネスから食、日本からアメリカまで、ジャンルの幅を大きくぶらすよう意識しています。

また、そこで得た新しい情報は、チームにも定期的に共有しています。そうすることで、チーム全体が常に広い視点を持てるようにし、考えが凝り固まらないように心がけています。



CEO/代表取締役
橋本 舜

株式会社ビットキー

<https://bitkey.co.jp/>



ID連携・認証と権利処理のデジタルキープラットフォーム「bitkey platform(ビットキー プラットフォーム)」を開発・運営し、世界中のあらゆるものを柔軟に1つのIDでつなぐことを目指すキーテクノロジースタートアップです。

カギが変われば、
未来が変わる

「bitkey platform」を応用したスマートロック「bitlockシリーズ」は単にカギをデジタル化するのではなく、宅配、家事代行、クリーニングといった多種多様なサービスを不在時に利用可能にすることで、人々の生活スタイルに革命を起こし、人生をより人間らしく豊かにすることを目指します。



Our Team Building

「ポジションが決まっている野球型ではなく、全員が何処へでも動けて各々が連動することで大きな価値を生むサッカー型組織づくり」

「サッカー型の組織づくり」で表現した、高い成果・イノベーションを生むチームおよびメンバーに必要な主要なポイントは

1. 【純粋なプロフェッショナルリティ】: 自身のミッション・ロール(役割)に対するコミットメント、自己成長性を有すること
2. 【連動性・連携性】: 周囲のメンバーの位置がリアルタイムに変化する中で、動きを予測し、連携して動き、自然に他者をリードできること
3. 【全体性】: フォーマーションや戦術を高度に理解し、チーム全体の成果のために動けること

これらはまとめて「Commit to Excellence (歓声とゴールを)」という当社のバリューのひとつにもなっている。また、マネジャーもあくまで役割でありサッカーという監督やコーチ役としている。あくまでも主役はフィールド上の選手(プレイヤー)であり、ヒエラルキーをなくし、人を向いて仕事をするのではなく、あくまで最高の価値創出にフォーカスできるチームづくり。



代表取締役 CEO
江尻 祐樹

代表取締役 COO
福澤 匡規

代表取締役 CCO
寶槻 昌則

株式会社AIメディカルサービス



<https://www.ai-ms.com/>

内視鏡の画像診断支援AIの開発している。

胃がんや大腸がん、食道がんなど消化器がんの検出や鑑別、さらにはがん以外の病気の鑑別などを支援する内視鏡AIを開発している。

様々な部位、疾患に関して世界初の成果が医学誌や学会に掲載され、世界的な表彰実績を有する。

全国100近い有力病院と共同研究契約を結んで優良な画像データを学習させており、精度を高めたAIの検証を繰り返して近く医療機器として製造販売承認を取得し、自ら上市する計画である。

静止画だけでなく動画にも対応し、また難易度が高い胃がんを手掛けているのが特徴である。



AIM's Mission

Dedicated to early detection of GI cancers

世界の患者を救う

内視鏡は、日本が世界をリードしている先進の医療分野。

ところが足もとでは、「病変見落としが医師によっては2割以上」「大量の2重チェック負担で専門医が疲弊」という現実。

この問題にAI（人工知能）で立ち向かい、世界の内視鏡医療に貢献したい。食道・胃から小腸・大腸まで、がんを早期のうちに見つけ、壊滅できるようにしたい。

そんな想いで創業したベンチャーです。



Our Team Building



代表取締役CEO
多田 裕裕

代表取締役COO
山内 善行

「ゼロイチ志向」をバリューの一つとして掲げています

当社のバリューは、「ゼロイチ志向」「現場志向」「ポジ志向」と3つあり、これらを大切に行動指針としていますし、採用時にもこのバリューに共感共鳴してくれるかどうかを重視しています。このうち「ゼロイチ」志向は、「よりミッション寄りの目標にコミットし、ハザマの課題を自ら拾い、仲間と自分のチャレンジを尊重する」という内容です。仕事のうえでも初めてトライすることが多いため、挑戦を恐れないよう奨励しています。

株式会社QBIT Robotics

<https://www.qbit-robotics.jp/>



「ロボティクス・コミュニケーションがもたらす誰もが幸福な楽しい社会を目指す」を理念に、人手不足が深刻化する外食業などのサービス業に対し、ロボット実装を実現。ロボットの活用提案、システム設計、導入支援、運用サポートまでの、ワンストップソリューションを提供する。

ロボットに調理や荷卸など実働を行わせ、かつ、画像認識とAIを用いた接客も実現。ロボットは、お客様に合わせて接客内容を変化させる「目配り・気配り・心配り」を行います。この提供内容の先進性/ユニーク性により、国内外から多くの注目と期待を得ている。

深刻化する人手不足。高騰する人件費。

しっかり働き、売上貢献する、

接客ロボットで、解決します。



Our Team Building



代表取締役社長 兼 CEO
中野 浩也

「人と人、ロボットと人、ロボットとロボット
いずれもコミュニケーションが重要」

ロボットが人の仕事を奪うのではなく、人とロボットが協働する世界、ロボットの存在が人の能力を高めてくれる世界、QBITはその実現を目指しています。上記ビジョンをもとに、様々なプロジェクトを遂行することでチーム強化を図っています。

At EY, we have long recognized the potential of entrepreneurs. Over the past three decades, we have been working with entrepreneurs, adapting our experience, industry capabilities and resources to work for entrepreneurial, fast-growth companies. We work with a range of businesses, from those receiving their first venture funding through to large mid-cap companies, whose value may be measured in billions of dollars.

EY Innovative Startup 2020 Winners



AI | ニューラルポケット株式会社



AI | ギリア株式会社



AI | 株式会社日本データサイエンス研究所



AI | 株式会社pluszero



AR | プレティア・
テクノロジーズ株式会社



GovTech | 株式会社グラファー



IoT | 株式会社バカン



Energy | NExT-e Solutions株式会社



Enterprise | Anyflow株式会社



Enterprise | オーティファイ株式会社



Enterprise | キャディ株式会社



Security | EAGLYS株式会社



FoodTech | インテグリカルチャー株式会社



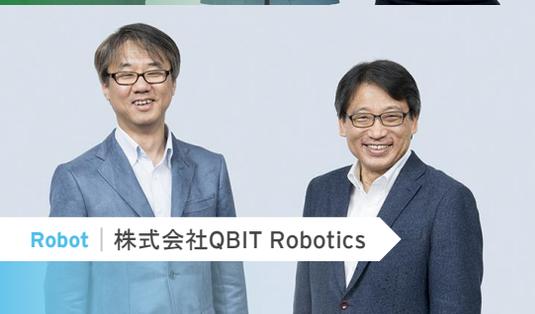
FoodTech | ベースフード株式会社



Digital key | 株式会社ビットキー



Health Care | 株式会社AIメディカルサービス



Robot | 株式会社QBIT Robotics

See **YOU**
here in 2021



EYについて

EYは、アシュアランス、税務、トランザクションおよびアドバイザリーなどの分野における世界的なリーダーです。私たちの深い洞察と高品質なサービスは、世界中の資本市場や経済活動に信頼をもたらします。私たちはさまざまなステークホルダーの期待に応えるチームを率いるリーダーを生み出していきます。そうすることで、構成員、クライアント、そして地域社会のために、より良い社会の構築に貢献します。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY Japanについて

EY Japanは、EYの日本におけるメンバーファームの総称です。EY新日本有限責任監査法人、EY税理士法人、EYトランザクション・アドバイザリー・サービス株式会社、EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社などから構成されています。なお、各メンバーファームは法的に独立した法人です。詳しくはwww.eyjapan.jpをご覧ください。

© 2020 EY Japan Co., Ltd.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスをを行うものではありません。EY Japan株式会社および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

お問い合わせ

EY新日本有限責任監査法人
EY Innovative Startup 運営事務局
BD-ONE@jp.ey.com